



特集

褥瘡対策チームにおける多職種間の相互理解と連携強化のために知っておきたいこと

B. 多職種からの褥瘡予防と治療・管理に関する基礎知識とアップデート

薬剤師からみた基礎知識とアップデート

生島繁樹

地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター 薬剤部長

Point

- ▶ 褥瘡局所治療には、wound bed preparation が重要である
- ▶ wound bed preparation のための基剤には、吸水性基剤、補水性基剤、保湿性基剤がある
- ▶ 外用薬は、主薬と基剤を理解して、創腔にしっかり充填し、かつその上に 3 mm の厚さで塗布する

はじめに

急速な高齢化社会に対して、医療が病院完結型から地域完結型に移行し、医療スタッフを取り巻く環境も大きく変化してきています。平成 22 年 4 月 30 日 (医政発 0430 第 1 号)「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」により、多くの職種が積極的に関わり合うチーム医療とスキルミックスが必要となりました。褥瘡分野においても取り巻く環境が大きく変わってきており、薬剤師の関わり方も日々変化しています。

そして平成 26 年 3 月 19 日 (医政発 0319 第 2 号)「薬剤師の使用方法に関する実技指導の取り扱いにつ

いて」により、薬剤師を積極的に活用することが可能な業務として、薬物療法を受けている患者に対し、薬学的管理を行うことなどをその具体例として「薬剤師が、調剤された外用剤の貼付、塗布又は噴霧に関し、医学的な判断や技術を伴わない範囲内での実技指導を行うこと。」とされ、薬剤の調剤や適正使用に加え、実技指導を行い、より薬効を活かした治療が望まれています。



褥瘡の定義

褥瘡は、「身体に加わった外力は骨と皮膚表層の間の軟部組織の血流を低下、あるいは停止させる。この状況が一定時間持続されると組織は不可逆的

な阻血性障害に陥り褥瘡となる。」と、2005 年に日本褥瘡学会によって定義されています。局所的または全身的な要因が重なり合い、褥瘡は発生します。

wound bed preparation (創面環境調整)

治療においては、発生要因を探り、取り除くことが重要です。加えて局所治療は重要な治療の 1 つです。そのなかで外用薬は重要となります。

褥瘡局所治療には、wound bed preparation (創面環境調整) が重要となります。そして、褥瘡局所治療に用いる外用薬は、さまざまあります。外用薬は、

薬効成分の主薬と、添加剤に該当する軟膏基剤や賦形剤、溶剤などで構成されています。褥瘡のような皮膚潰瘍面では、皮膚のバリア機能としての表皮がないため、潰瘍面に薬剤を充填することにより湿潤環境を適正化することが重要な要因となり、いかに薬剤を滞留させることができるかが重要です。

褥瘡治療薬の薬効

外用薬は、よく薬効によって分類されます (図 1)。しかし褥瘡治療においては、薬効だけ

でなく基剤の特徴も考慮する必要があります。

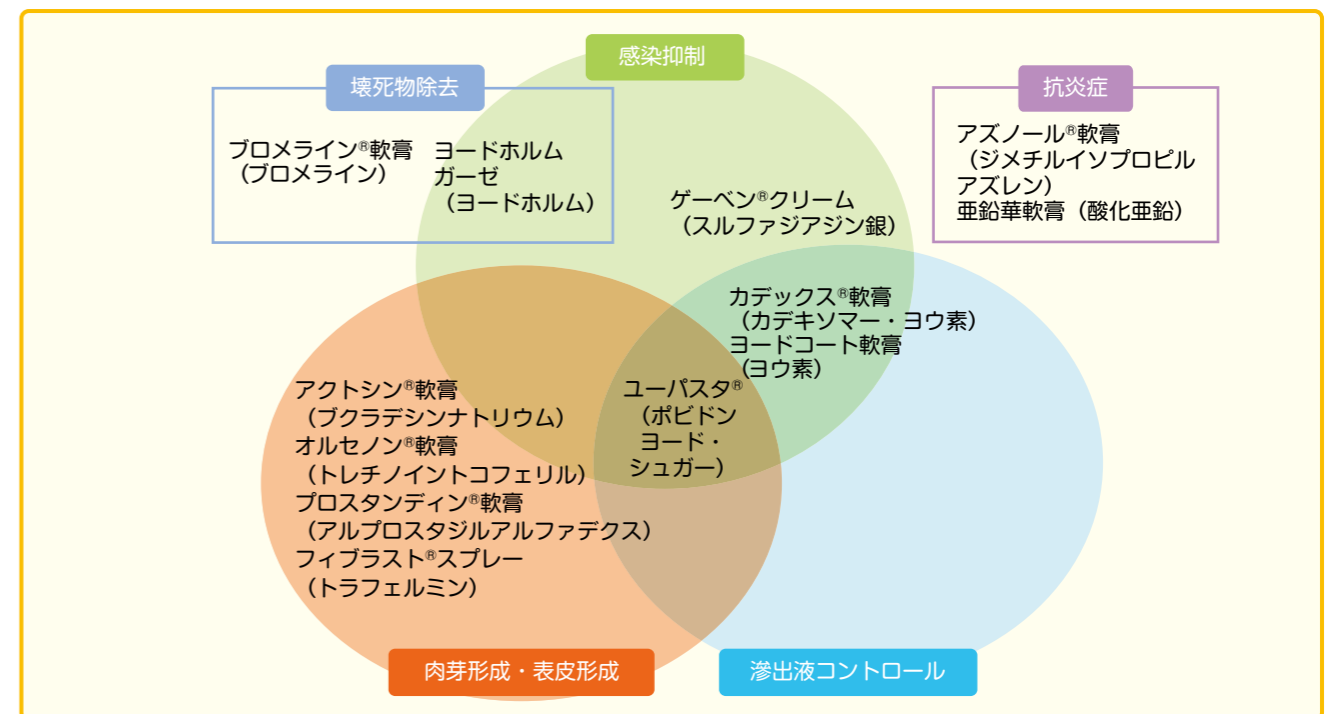


図 1 褥瘡治療薬～薬効成分による分類～